

帰省 II 故郷にて

自らを省みる

先月はお盆月でした。例年の如く、TVで放映される帰省ラッシュ時の映像を見てみると、あたかも戦争が始まったかの如く勢いです。突然ですが、皆さんはどうでしたか？帰省時には一体何をしてお過ごしになりましたか？色々な方があると思います。家族サーブिसという事でテーマパークに行ったのは良いけど、順番待ちで1日終ってしまった。昼間からビールを片手に、つまみと高校野球を見ながらなんとなく過ごした。あるいは親戚中集まって、これからお祖父ちゃんお祖母ちゃんのお行く末を、ああでもない、こうでもないと言った等々。まあ色々な過ごし方があると思います。しかし本来これではいけないのですよ。『帰省』とは、自らの行動、気持ちなどを省みる。つまり故郷に戻り、身も心も落ち着けて、自らを反省するという事になりました。しかし、なかなか自らをかえりみて、反省をすること事態が難しいのですが。私のお盆と言えば、10日から16日までの1週間は、皆さんのお宅の精霊棚へのお参りにお邪魔させて頂いたわけでありませう。その折り、週に4日はデイサーブिसに通って

るといふ、あるお婆さんのお宅の仏壇を伺った時の話です。そのお婆さん、誰かの助けを借りなければ食事をするのも、お風呂に入るのも困難だということです。そのお婆さんがこうつぶやいたのです。「私は誰からも必要とされていないのです。足腰は痛いし、座るにも正座は出来ないし、1度イスに腰掛けると、なかなか立ち上がることも出来ない。もうこれ以上、息子夫婦にも迷惑をかけさせたくない。だから、もう死んでもいいと思っているのに、なかなかお迎えが来ないのです。」と。皆さんならどう思いますか？

現在の最先端物理学の理論を調べると、興味深い事が示されています。それは、この地球上に存在する森羅万象あらゆるものは、この宇宙をつくるために必要欠くべからざるものとして存在している。例えば道路の端っこに落ちていた小さな石ころ一つにしても、また道端に生えている雑草一本にしても、それは存在していることに意義がある。この宇宙は微妙なバランスの上に成り立っている。全てのエネルギーのバランスが取れて、初めて宇宙は存在する。どんな些細なエネルギーが欠落しても、この大宇宙は崩壊するようになってしまう。この宇宙に存在するあらゆるもの（エネルギー）の、バランスがとれているからこそ、この大宇宙は存在しているというのですよ。つまり我々1人1人は等しく意義ある存在という事が証明されているということが言えます。

以上のことから、わたしたち生命あるものは、その微妙なバランスの中で、何らかの使命を持って生かされている。だから自殺などのように、自ら命を絶つ様な事があれば、とたんに周囲のバランスが崩れ、遺された人間の精神状態をもバラバラにしてしまい、悲しい連鎖反応や事件に繋がってしまうのです。

自然は常に循環しています。自然に逆らわない事です。自然界とは大雑把に次のような事でしょう。例えば、中には色々なバクテリアや細菌がいて植物の根の成長を助け、それによって地中に草が繁茂する。するとそこに草を蝕む昆虫類が沢山群がってくる。これらの昆虫は、昆虫同士で食べたり食べられたりして生存している。また草食動物も草を食べる。そして今度は、その草食動物を肉食動物が食べて命を永らえていく。肉食動物は老いて朽ち果てると、また土へ帰っていき、それが土壌を豊かにし、そこにまた新しい草花や木が生えるようになる。この様に自然界は常に循環していると同時に、命の連鎖が続いていることを意味しています。私達は何のために生かされているのか？その第一の目的は、世のため人のために、ささやかでも良いから尽くすことにあると思います。

お釈迦様が一番大事なことは利他の心であると説示されました。思いやりを持った慈悲の心です。自分だけ良ければいい、この様な利己の心を離れて、利他の心で人様を良くしてあげようと

いう心で人生を生きていく。すると、自然に感謝の心が芽生え、自然と自分自身がどんな環境にあっても幸せだと思える心になっていくはずだ。どんな境遇であれ、心のあり方によって幸せはそれぞれに感じられるものです。その人の思い、その人が実行する行為によって変わっていく。利他の心で人様を助けてあげる、人様に親切にしてあげる、そういう美しい優しい思いやりの心を持つことが、自分の運命をよい方向に導いていくためにも大事なことです。人生というものは自分の心に思うように変わっていくのです。

来年の帰省時には、またユックリと己を省みる事が出来れば幸いですね。

合掌

副住職 谷川 寛敬

